

1. 主な研究内容について

1) 作業療法評価に関する研究

パーキンソン病の日常生活動作障害の新たな評価方法、高次脳機能障害の観察評価方法、デジタル機器を用いた評価手法の検討・開発を行っている。

2) パーキンソン病の日常生活活動に関する研究

パーキンソン病に生じる特徴的な日常生活活動の障害と介入方法について調査、研究を行っている。

3) 高齢期の作業療法

2次予防対象者、要支援者に対する予防的介入方法と効果の検討を行っている。

2. 主な共同研究先

広島大学、大阪府岬町、(株)かなえるリンク、介護・デイサービス樹楽

3. 今まで指導した学位論文名

<博士論文>

2012年度 『大阪府における精神障がい者の早期離職に関する研究』

2015年度 『A study on the effectiveness of dance for Parkinson's disease patients』

2017年度 『The effects of a life goal-setting technique in a preventive care program for frail community-dwelling older people.』

<修士論文>

2010年度: 『作業療法学生の面接能力と情動知能に関する研究』

『脳血管障害者の住宅改修の効果検討』

『右半球損傷患者の社会的行動障害評価尺度の開発』

2011年度: 『家族機能評価を導入した家族指導の効果に関する研究』

2012年度: 『介護予防教室における生活目標設定手法の導入効果に関する研究』

2013年度: 『日常生活活動の観察から行う高次脳機能障害の評価(A-ONE)の信頼性と妥当性に関する研究』

『HIV感染者における神経認知機能と日常生活障害に関する検討』

2014年度: 『介護老人保健施設における職種間連携のためのICF Stagingの導入効果に関する研究』

2015年度: 『脊髄損傷後の神経障害性疼痛に対する運動イメージを用いた疼痛軽減効果の検討』

2016年度 『脊髄損傷者における退院後早期の困りごとについての研究』

4. 主な論文・著書

・高畑進一, 宮口英樹: パーキンソン病はこうすれば変わる-日常生活の工夫とパーキンソンダンスで生活機能を改善-, 三輪書店, 東京, 2012

・Hashimoto, H, Takabatake, S, Miyaguchi, H, etc: Effects of Dance on Motor Functions, Cognitive Functions, and Mental Symptoms of Parkinson's Disease: A Quasi-Randomized Pilot Trial, Complementary Therapies in Medicine, 23(2), 210-219, 2015

・伊藤利之, 鎌倉矩子, 水落和也, 渡邊慎一, 高畑進一 (編著): ADLとその周辺 評価・指導・介護の実例 第3版, 医学書院, 東京, 2016

・Yoshimi Yuri, Shinichi Takabatake, Tomoko Nishikawa, Mari Oka, Taro Fujiwara: The effects of a life goal-setting technique in a preventive care program for frail community-dwelling older people: a cluster nonrandomized controlled trial, BMC Geriatrics, (2016)16:101

5. 現在の指導している大学院生数

M2: 1名, D1: 1名, D2: 1名, D3: 4名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか?

研究は以下の過程から成ります。1) 自分の疑問を実施可能な研究デザインにして実行する 2) 結果を考察し結論づける 3) 一連の過程をわかりやすく発表する。一見すると単純に思えますが、相応の努力と時間を要します。そこで、粘り強く考え、物事に丁寧に取り組む方を受け入れます。

社会人は自身の臨床経験に基づく疑問を研究テーマとすることが基本です。日々の臨床における数々の疑問の中から、研究意義があるテーマを持って大学院を目指してください。